

徳島県立保健製薬環境センターニュース Vol.3

平成24年8月 発行



鳴門第一小学校と阿南第二中学校で環境教育実習を実施しました。 <水質環境担当>

本県の水環境は全国的にみても高い環境基準の適合状況ではありますが、中小河川等においては、未処理の生活排水や未規制事業場等の排水に起因しているとみられる水質汚濁が見受けられます。そこで水環境問題を身近なものとして意識づけることを目的に、小中学生を対象に「みんなで水質汚濁を考える教室」を開催しました。

実習実績は次のとおりです。

学 校 名	実 習 実 施 日	実 習 参 加 人 数
鳴門第一小学校	平成24年6月29日(金)	4年生(1組35名、2組35名)
阿南第二中学校	平成24年7月 9日(月)	1年生(1組29名、2組29名)

教室は、まず生活排水が河川水質に及ぼす影響について下記担当が講義を行い、その後に保健製薬環境センター水質環境担当の職員が実習を行いました。(阿南第二中学校については南部総合県民局職員が2組を担当しました。)

【講義内容】

- 1、川の役割について(河川振興課)
- 2、生活排水対策について(環境管理課)
- 3、水辺環境の保全と再生について
(鳴門市環境政策課、鳴門第一小学校のみ実施)



【実習内容】

- 1、CODパックテストの使用法説明
- 2、水道水の水質検査実習
- 3、生活排水の水質検査実習
- 4、まとめと測定結果発表
- 5、環境教育、質疑応答



実習は、簡易水質検査キット(パックテスト)を用いて、水質汚濁の指標であるCODの測定を行いました。CODは有機物による水の汚れを示す量で、数字が大きいほど汚れている状態を表します。試料には水道水の他に、生活排水の一例として水道水にお米のとぎ汁、牛乳、炭酸飲料、みそ汁を数滴加えたものを使用しました。

パックテストを用いた実習では、パックテストの色の変化に興味を持つ生徒や、水道水と生活排水の結果の違いに驚く生徒など、様々な反応が見られました。測定した結果は班ごとにまとめて発表してもらいました。

その後、「どうすれば水を汚さないようにできるか」というテーマで環境問題について考えてもらいました。ごはんを残さないようにする、作りすぎないようにするなどの様々な意見が出ました。

生徒のみなさんには、今回の教室の内容をふまえて、日常の生活から環境問題に関心を持っていただければと思います。

